

環境経営方針

吉田紙器工業株式会社は、段ボール製品を製造販売し「利益を得て」おります。段ボールはパルプより製造され、パルプは木材より製造されます。自然環境が保たれなければ「利益を得られなくなる」事を常に考えなければなりません。従って、私たちの住むかけがえのない地球、日本、地域等の環境を守り、保ち、向上させることが、私たちの社業の発展に繋がると信じ、事業活動の全てが環境保全に繋がると考え、自然に慈しみと思いをやりを持った経営と行動に努め、広く国際的・社会的・地域的に貢献いたします。

1. 事業活動の全ての分野を通じて環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定めて継続的な改善に努めると共に、安全・品質等の改善も全て環境保全に繋がると考え、全てのマネジメントシステムの中心をE A 2 1とし運用していく。
2. 環境関係は基より、全ての法令・規則・条例・差別・ハラスメント禁止を遵守すると共に、国際的機関・行政機関・団体・地域等の要請に協力いたします。
3. 事業活動において環境に与える影響を削減しつつ効率化を計る為、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ①設備・空調・車両の運転による、電気・燃料使用量の削減
 - ②事業活動から排出される産業廃棄物の削減
 - ③事業活動による水使用量の削減
 - ④環境に配慮した設備を導入しつつ効率化を行う
4. 生産活動での使用物品・事務用品等グリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。
5. 営業活動での環境に優しい製品のお客様への提案に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。
6. 環境保全向上に関する勉強を行い、国際・社会・地域的な貢献活動に努めます。
7. 環境保全向上に関する事柄に留まらず、全ては環境保全に繋がると考え、広く勉強を行い、国際・社会・地域的な貢献活動に努めます。

この環境経営方針は全社員に周知を徹底するとともに、社外へも公開いたします。

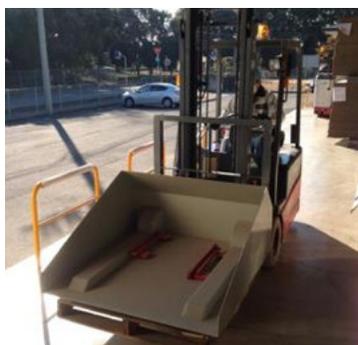
制定日2006年6月21日
改定日2018年10月1日

吉田紙器工業株式会社

代表取締役社長 吉田 修



社内安全の強化と、作業の効率化に、 全力で取り組んでおります。



フォークリフト用除雪機器



ネスター（移動式製品棚）



熱中症予防にファン付ベスト



プラットフォーム
落下防止ガードポール

会社概要

創業	大正11年(1922年) 樽勘商店 店主 吉田 勘次
設立	昭和40年1月(1965年) 吉田紙器工業株式会社 代表取締役 吉田 晁一郎 館林市内にて段ボール事業へ転身。
	平成13年10月(2001年) 現在の邑楽町に工場移転
	平成17年12月(2005年) 吉田紙器工業株式会社 代表取締役社長 吉田 修
営業内容	段ボールケース及包装資材の製造販売

これまでの歩み

樽から、段ボールへ

140年前(明治7年)、野田市の醤油会社から、樽作りの職人として館林に派遣され、地元の醤油製造会社様の醤油樽の製造を始めたのが弊社の前身。



時代の移り変わりと共に、新たな梱包資材となる段ボールの製造・販売業へと転身し、現在に至る。



これからの歩み

伝統とは革新の連続

樽職人の想いを受け継ぎながら新しい技術を導入し、これから先の時代を進んでいきます。

